

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 黒川基裕	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
1－1. 研究成果	
<p>本年度は、主として1. 途上国における産業デザイン人材の育成研究、2. タイ国自動車産業における官民連携支援の2つの研究テーマを推進した。</p>	
<p>・途上国における産業デザイン人材の育成研究</p> <p>本研究は、日本学術振興会・科学研究費・基盤研究（C）の支援を研究代表者として受けているもので、3年度に渡る研究計画のうち2年目の計画を実施してきた。</p> <p>本研究は、今後需要が高まっていくと想定される産業デザイン人材をいかにして途上国で育成していくのかを検討するものである。具体的には、日本デザイン振興会が策定した「産業デザイン人材スキルスタンダード」を途上国向けにカスタマイズし、その活用可能性を検討している。本年度は、タイ国向けに設計した人材育成モデルのテスト・検証サイトとして、タイ国の代表的な美術系大学である Silpakorn 大学と関係構築を推進し、実際のカリキュラムでの試験的採用及びその成果の検証を実施する共同研究体制を確立した。</p>	
<p>・タイ国自動車産業における官民連携支援</p> <p>本研究は、日本学術振興会・科学研究費・基盤研究（B）の支援を研究分担者として受けているもので、3年度に渡る研究計画のうち、最終年度の計画を実施してきた。</p> <p>本研究では、日本政府が JTEPA（日・タイ経済連携協定）のもとで支援を続けているタイ国自動車産業において、その援助効果を検証しようとするものである。この支援は、TAHRDIP というプログラムであるが、プログラムに含まれる4つのプロジェクトのうち、研究・開発人材育成プロジェクトに焦点をあて、関係者との有意義な関係構築を促進しながら現地調査などを実施した。</p> <p>この研究の成果は、Improving R&D capability in auto parts manufacturers through VA/VE experience として取りまとめられた。これは、製品の向上を検討する手段である VE トレーニングが、いかにしてエンジニアの開発能力の構築に寄与するのかを説明する論文であり、プロジェクト内の研究会で報告された。</p> <p>また、その他の成果の一部は、2013年3月13日にタイ国バンコックで開催された Step Up Seminar for Thai Auto Parts Industry（JETRO、経済産業省、タイ国工業省、Thailand Automotive Institute 主催）において招待講演を受け、Challenges of Thai Auto Parts Industry として報告された。</p>	
1－2. 演習の運営	
<p>演習では、途上国支援の手段としても近年注目されている BOP ビジネスをテーマとして、「BOP 商品の商品企画」に学生らと取り組んできた。この演習テーマは、将来の国</p>	

際協力人材の育成だけではなく、クリエイティブ人材を育成することを念頭において設計されたものである。結果として、本年度は5つの商品企画案が作製され、それらは2012年10月に開催されたTokyo Designers Weekに出展された。展示作品は来場者から高く評価され、共同研究の引き合いなどを受けることができた。また、期間中に開催されたプレゼンテーション大会では、セミ・アワードを受賞することができた。

1－3．社会貢献

社会貢献については、援助機関や企業に研究成果の活用を促進してもらえよう、検討を重ねた。産業デザイン研究に関しては、タイ国におけるスキルスタンダードの導入に向けて、関係者との交渉を継続している。自動車産業研究においては、本年度から実施されたTAHRDIPのプログラム策定に参画し、研究成果を提供すると同時に、上記の通りカンファレンスにおいて、研究成果を広く業界関係者に報告する機会を得た。

また、2012年5月より有限会社ハンサの取締役役に就任し、主としてタイ国での商品企画・デザイン業務にデザイン研究の知見を提供している。

1－4．学部・大学院講義の質的向上

講義毎に実施される授業評価の結果を参考にして、講義内容や方式の改善に努めた。理論の講義においては、水準を適切に調整するとともに、具体的事例をより多く取り込み、学生の理解が促進されるように再設計した。

1－5．来年度の計画

産業デザイン研究においては、次年度が研究計画の最終年度にあたるため、これまでの成果を取りまとめていくことを目標とする。その際には、いかにしてスキルスタンダードをタイ国で機能させるのかを検討し、今後の展開計画のためにタイ国工業省、Silpakorn 大学など、関係機関との交渉を促進する。

本年度までの3カ年にわたる自動車産業研究では、3本の論文をdiscussion paperレベルで取りまとめたが、次年度はこれらに理論的考察を付加して、学術論文として完成させることを目指す。また、タイ国におけるTAHRDIPのプロジェクトサイトへの調査を継続させて、現地関係者との関係構築を維持するとともに、得られた今後の研究計画の立案に活用していく。また、両研究とも実体経済との接点を強く持っているため、研究成果の還元については、より積極的に取り組むようにする。

2 その他の事項

学内では、地域政策研究センター運営委員、国際交流センター運営委員、学生相談室相談員を担当した。